令和５年度　新殿小学校だより　No.８　令和５年６月３０日（金）発行

みどりの丘

文責　三本松市立新殿小学校長　高松宏光

水泳開始

いよいよ水泳が本格スタートです。日本の小学校では当たり前にある水泳の授業ですが、世界的には非常に珍しいようです。子どもたちには、安全に楽しみながら、泳ぐ力を高めてほしいと思います。スピードも大切ですが、最も大切なのは**長く泳げるようにすること**です。２５メートルを一つの目標に、達成した子はさらに 50 メートルを目指して、泳ぐ力をどんどん伸ばしていきたいと思います

自分に自信を

校内を巡視していると、図工室で絵を描いている学年がいました。「何の絵を描いてるの？」と尋ねると【将来の夢】をテーマに、自分のなりたい仕事を描いているとのことでした。さて、これからの社会を生きていく子どもたちに必要となる力とは、どのようなものでしょうか。

平成 30 年に、内閣府が日本を含めた７カ国の満 13 才～29 才の若者を対象として意識調査を行いました。下に表で示したものが、その質問事項と結果の一部の抜粋です（数字は「そう思う」と答えた％です）。

	日本	韓国	アメリカ	フランス	スウェーデン
私は、自分自身に満足している	45.1	73.5	86.9	85.8	74.1
自分には長所があると感じている	62.3	74.2	91.2	90.7	72.7
うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む	51.5	71.6	78.1	87.4	62.9
自分は役に立たないと強く感じる	51.8	50.8	55.2	39.4	37.0

世界の国々と比較すると、日本の若者は**《自己肯定感》《自己有用感》《意欲》**が低いことが分かります。

自分に自信を持つことは、積極性を高め、自分を磨いてくことにつながります。一方で、自信のない子は、チャレンジすることに前向きになれるでしょうか･･･。学校では、学習だけでなく、当番活動や委員会活動、縦割り班活動など、様々な場面で役割を持たせ、《肯定感》《有用感》《意欲》等を育むことに努めています。自分を認め、信じる力をしっかり育んでいくことが、小学校時代に大変重要です。

子どもの力で子どもを伸ばす

学校生活について教職員で話し合う場でのこと、昇降口前の砂利道を走っている子がよく見られるようになった、との話があがりました。砂利の場所を走ると転びやすく、転ぶと大きな怪我につながります。「砂利の場所は走らない約束になっています。怪我をしないよう、全教職員で共通意識をもって指導しましょう。」と話し合いがまとまりかけたところで、一人の教員が意見を加えました。「子どもたち自身に呼びかけさせたらどうでしょうか？」「確かに、子どもたちから注意をさせた方が、意識が高まっていましたね！」結果、教職員が機を逃さず安全指導をしていくことはもちろんですが、子どもたち自身の力で注意喚起させることにもなりました。素晴らしい判断だと思いました。

昇降口には、子どもたちによる「じゃり道は歩こう!！」のポスターの他、「ありがとう」という、私が最も大切にしてほしいキーワードや読書を促すポスターなども以前から貼られています。子どもの力を生かし、子どもたちを伸ばしていきたいと思います。

「巨視的に見る」

【５、６年の果樹園体験学習】

学校では、様々な場面で「見る力を育てる」という言葉が使われます。今回は「巨視的に見る」ということについてのお話です。

「巨視的」とは、簡単にいうと【ながめるように大きく見る】ということで、見学学習などがこれにあたります。実際にその場に行ってながめ、気づきや疑問を見つけてくること、あるいは事前に学んだことを確認し、理解を深めることに見学学習の意味があります。

私が見学学習を引率するときには、「大人がすることには、無駄なことはありません（実際は違うかもしれませんが･･･）。どんなことにも意味があるので、【気づいたこと】【気になったこと】はどんどんメモするように！」と指導します。これは、社会科の研究で全国的に有名な有田和正先生の著書から学んだことです。

自動車工場に行った有田先生の子どもたちは、工場の人への質問タイムに、見学で気になったことを尋ねていきました。その中で、工場内に止めてあった【自転車】に気づいた子が「どうして【自転車】があるんですか？」と質問しました。有田先生は、内心「ちょっと的外れな質問だなぁ･･･」と思ったそうです。しかし、工場の人は、「素晴らしい気づきですね！実は、工場内が広く、緊急で知らせに行かなくてはいけない時に使うんですよ！」と、自転車にも重要な用途があることを説明したそうです。

【１、２年のまちたんけん】

巨視的に物事を見つめ、**「どんなことにも意味があるのでは？」**と考えていく姿勢を育むことが、子どもたちの思考力を高める上で重要なんですね。

次回は、「微視的に見る」についてお話しします。